

自然を語る会

日時：2022年5月21日(土) 9:30~12:00

場所：飯田橋ボランティアセンター+Zoom

担当者：柳澤征克さん

チャールズ・チャップリンの映画「独裁者」鑑賞会

ロシアの一方的な武力行使によって、ウクライナでは今もなお悲劇が続いており、多くの
人々の命と自由が奪われ、豊かな自然も無残にも破壊され続けています。

今月の自然を語る会はウクライナの平和への祈りを込めてチャールズ・チャップリンの
映画「独裁者」(1940年 米)のDVD鑑賞会を行いました。この映画が公開された当時
(1940年)は、世界はまだヒトラーとナチスの危険性について十分に認識していなかった時
代。そんな中、その鋭い感受性でナチズムの危険性に気づき、全身全霊でヒトラー批判の映
画を作ったのが喜劇王チャールズ・チャップリンでした。チャップリンはこの映画のために
これまでのサイレント(無声映画)を捨て、初めてトーキー映画を製作しました。

映画の中のチャップリンは、世界征服の野望に燃える独裁者と善良なユダヤ人床屋の二
役を演じ、ヒトラーの狂気を笑いとばし、その欺瞞を告発しました。独裁者の戦争の大義は、
どこまでも幼稚でくだらないものだと思うにはいられません。ハンナのようにフ
ライパンで現代の独裁者の頭を「カーン」と叩いてくれる勇敢な人がいたら、今の戦争はあ
っさり終わるんじゃないかとさえ思えてきます。ラストシーンの6分間に及ぶ大演説は、
ファシズムの恐ろしさを糾弾し、全人類が平和のために団結する必要性を訴えた映画史上最
高の演説と言われています。まさに映画を越えた映画。今すぐロシアの兵士たち(彼らこそ、
独裁者の犠牲者だと思います)に見て欲しい。その演説の中でも私は特にハンナに語りかけ
る一番最後のシーンが好きです。どんなときでも一番そばにいて欲しい人を大切にする気
持ちに心打たれます。このシーンがあるおかげで見終わった後に希望に満ちた温かい気持
ちに包まれました。

カーソンが「沈黙の春」で世界で初めて環境問題を告発し、地球上の生命の繋がりを守る
ことの必要性を訴えたのと同じように、チャップリンは「独裁者」でファシズムの脅威を告
発し、世界の平和のために人類が団結することの必要性を訴えました。カーソンが「センス・
オブ・ワンダー」で豊かな感性を持ち続けることの大切さを語ったのと同じように、チャ
ップリンは「独裁者」でやさしさや思いやりを持ち続けることの大切さを語りました。

カーソンは環境問題。チャップリンは戦争。時代背景やテーマこそ違いますが、私たちが
いつの時代も大切にしなければならない根っこは同じなのだと思うにはいられません。

『戦争は最大の環境破壊であり、人々の心をも破壊します』

(パネル展示企画に寄せられた上遠恵子さんのインタビュー記事より抜粋)

最後に私が好きなチャップリンの名言を一つご紹介します。

『下を向いていたら、虹を見つけることは出来ないよ』

ウクライナに一刻も早く自由と平和が訪れることを心からお祈り致します。

(文責 柳澤)